

花の進化園におけるダリアの管理について

大矢祐一郎・山本昌生

2019年に花の進化園に植栽したダリアについて、秋に開花のピークを迎えることを目指して栽培管理を行ったのでその内容を報告する。ダリアは一般に春に植え付けを行い、初夏と秋に開花期を迎えるが、夏の高温にやや弱い。そこで、高温による生育不良を避けて秋に良花を得ることを目的に、球根の冷蔵保存によって植え付け時期を遅らせ、秋に一番花を咲かせることを試みた。

ダリア‘イエロークリスタル’、‘清流’、‘陽加’、‘ペチカ’、‘雪むかえ’の5品種を植栽に用いた。これらの球根の生育状況および作業内容を表1に示す。球根の保存は、球根を段ボール箱に入れた後、箱をポリ袋に包んだ状態で行った。通気を図るため、ポリ袋の開口部は密閉せずわずかに隙間を保つようにした。3月から6月にかけて冷蔵保存を行った球根は芽の伸長が抑制された(図1A)。冷蔵による傷害は特に見られなかった。一方、5月12日に冷蔵室から約20~25℃の室温下での保存に移行した球根の芽は約6~7cmに伸長していた(図1B)。7月1日に球根を植え付け、適宜摘心や脇芽かき、支柱立てを行った。9月から10月にかけて気温が低下し始めた時期はうどんこ病の予防を目的に薬剤散布を重点的に行った。その結果、開花期間を通じてうどんこ病の

発生は見られなかった。また、着蕾期から開花期にかけてヨトウムシが発生したため、毎朝見回りを行い捕殺したほか殺虫剤の散布を行った。球根の植え付けから約2か月後の9月初旬から9月中旬にかけて一番花の開花に至った。10月中旬ごろから二番花が咲き始め、11月下旬まで繰り返し咲き続けた。天花仕立てと比較して、摘心仕立てでは花数が増えにぎやかな印象となり、今回用いた品種を花の進化園に植栽する場合は摘心仕立てが適しているように感じられた。

ダリアの開花期間中に秋のグリーンフェアや開園記念日を迎えることが出来、来園者からは好評で、写真撮影をしている光景もたびたび見かけた。バラと比較してダリアは開花期間が長く管理も容易であるため、これらのイベント期間に合わせた秋の見頃の花として栽培・展示に力を入れる価値を感じた。

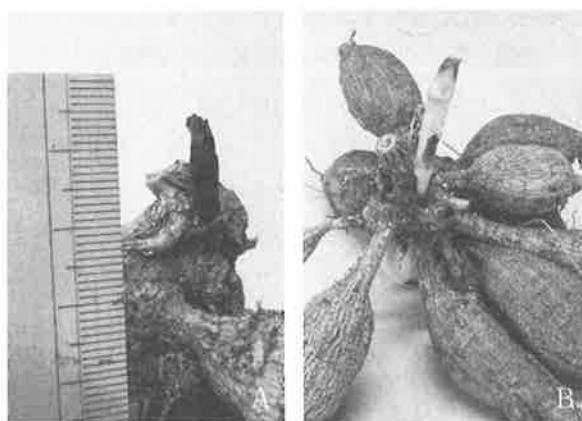


図1. 冷蔵保存によるダリア‘陽加’の芽の伸長抑制(2019年6月15日撮影)。(A) 冷蔵保存により伸長が抑制された‘陽加’の芽。(B) 冷蔵室から室温下での保存に移行した‘陽加’の芽は約6~7cmに伸長していた。

表1. 2019年に花の進化園に植栽したダリアの管理法

| 日付 | 生育状況・作業内容 |
|--------|--|
| 2月27日 | 球根掘り上げ後、育苗温室(最低気温5℃)にて乾燥保存した。 |
| 3月6日 | 球根分割後、冷蔵室(4℃)に移行し保管した。 |
| 5月12日 | 一部の球根を冷蔵室での保存から20~25℃程度の室温下での保存に移行した。 |
| 6月23日 | 植え出しに向けた順化のため恒温室(25℃)に移動して保管した。 |
| 7月1日 | 花の進化園に球根を植え付けた。 |
| 7月18日~ | 随時施肥、摘心、脇芽かきを行った。開花時期の比較のため無摘心(天花仕立て)の株も残した。 |
| 9月7日~ | 天花仕立ての株が開花した。 |
| 9月中旬~ | 摘心仕立ての株が開花した。 |
| 9月29日 | 薬剤散布(フルピカフロアブル、ダニサラバフロアブル) |
| 10月3日 | 薬剤散布(トリフミン水和剤、アディオン乳剤、アプローチBI) |
| 10月10日 | 薬剤散布(サンヨール乳剤、アプローチBI) |
| 10月中旬~ | 二番花が開花した。以降、11月下旬まで開花が続いた。 |
| 10月22日 | 薬剤散布(ダコニール1000、アフーム乳剤、アプローチBI) |
| 12月23日 | 地上部刈り取り、ラベル付けを行った。地植えのまま越冬させ春に植え替えを予定している。 |